

生物資源産業学部 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

生物資源産業学は、生物の優れた機能とそれを支える構造を科学的に解明し、それらの成果を生物資源の生産・応用に活用し、新しい産業を創出するための総合的学問・技術体系です。

本学部は、21世紀における食料、環境、医療、エネルギーなどに関連するさまざまな課題を解決するとともに、その技術を新しい産業創出に活かす人材を育成するため、「ものづくりマインド」と「起業マインド」の双方を備えた人材の育成に重点を置き、以下の特長ある教育カリキュラムを編成します。

1. 1次製品の生産から加工、製品開発・販売、機能食品・医薬品の開発に関する先端技術を理解し、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、アグリサイエンス、フードサイエンス、ヘルスサイエンスに関する専門教育と産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を行います。
2. 生物資源の生産、加工・応用、製品化を総合的に理解するために必要な基礎教育を重視し、1・2年次に行われる学科共通科目（講義9科目18単位）と実習・演習科目（3科目4単位）を必修化します。また、推薦入学による農業系高校出身学生の基礎教育では、高大接続科目や自然科学入門を1年次に履修することにより、基礎学力の修得を徹底します。
3. 生物資源を活用した産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を重視し、経済・経営関連科目として「経済学基礎」、「経営学入門」、「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「知的財産の基礎と活用」、「アグリビジネス起業論」、「食品マーケティング論」（7科目14単位）、実習演習（「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」）（2単位）の必修科目と選択科目である「国際農業論」、「ブランド戦略論」（2科目4単位）を開講するとともに、生物資源の利用、産業化に関する科目（「生物資源学概論」、「生物資源産業学実習」、「生物資源関連法規」、「生物資源産業学特別講義」）を必修化し、生物資源による新たな産業の創出に必要な基礎知識を涵養します。
4. 持続可能な生物資源の生産と応用には、生物生産現場の体験が重要であるとの認識から、生物生産現場の特性が体感できる実習（「生物生産フィールド実習」）を1年次に必修科目として実施します。
5. 農学、工学、医学、栄養学及び薬学分野が融合し、かつ安全性や環境にも配慮した先端技術による生物資源の生産、応用に関する教育を重視します。
6. 生物資源の生産管理や分析には、情報処理の知識が不可欠であるため、教養教育科目である基礎数学（「統計学」、「微分積分学」）と学科共通科目である「生物情報処理学」、「コンピュータプログラミング演習」を必修科目とし、情報処理能力を修得する教育を実施します。
7. 「キャリアパス」、「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」、「生物資源産業学特別講義」、「技術者倫理」や「インターンシップ」、学外での卒業研究によって、現場での実践力を養う教育を実施します。

8. グローバル化を見据え、専門英語については、「生物資源産業学基礎英語」と「生物資源産業学専門英語」を必修化し、英語運用能力と国際感覚を高めるための実践的教育を実施します。
9. 生物資源の持続的活用と安全な食品生産、創薬のため、「技術者倫理」（3年後期）を必修化するとともに、コース専門科目においても技術者倫理・生命倫理に関する内容を講義に組み込みます。